



若手演奏家に晴れ舞台

若手演奏家の育成を目的にしたコンサートプロジェクト「エマージングコンサート」が12月17日、名古屋市中区栄の宗次ホールで開かれる。当日は愛知県立芸術大の学生4人が出演する。

コンサートは同ホール、同大、岐阜信用金庫の共同企画として開催。同金庫が応援企業として参加するのは2度目で、チケット購入などで支援する。プロジェクトはプロの演奏家を目指す同大の学生が、演奏だけでなく聴衆を楽しませる演出や構成などを実

コンサートをPRする(右から)早川香音さんと野間晴久総括支配人、光崎修専務理事＝岐阜新聞本社

岐阜信金企画 名古屋で来月コンサート

実践的に学ぶ取り組みで、今回21回目を迎える。

学生4人はコンサートのタイトル決めやチラシ作成、選曲など聴衆を意識しながら進めた。当日はシューベルトの「死と乙女」の第1楽章と第4楽章のほか、ラベルの「亡き王女のためのパヴァーヌ」などを披露する。

出演者の一人、同大3年の早川香音さんは「初心者も楽しめる内容を考えるのが大変だった。思い入れのある曲を皆さんに楽しんでもらえたら」と話した。同金庫の光崎修専務理事は「若手演奏家の育成に貢献することが地域の芸術文化振興や地域社会の発展につながる」と語り、同ホールの野間晴久総括支配人は「ホールも企業も皆で若者を支えていくことが大切と話した。午前11時30分開演。一般千円、指定席1500円。問い合わせは同ホール052(265)1715。(佐名妙予)